過疎化・過密化社会における諸問題の行動科学的視点

「流域環境平和学の創生」WS
人間行動研究領域　岩永　誠
2015年9月4日

過疎化・過密化

- 過疎化
  - 農山間部・島嶼部で加速
  - 若者人口の流出と高齢率の増加
  - 限界集落化へ
- 過密化（都市化）
  - 都市部への一極集中，多種多様な労働の提供
  - 若者の都市への流出，大学進学を通しての定住
  - 便利で豊かだが，高コストの生活

行動科学的視点

- 人の心と行動のメカニズム
  - 人の心と行動の働きに着目
  - 環境（刺激）と個人特性・集団特性（個人・集団）の観点から，心と行動のメカニズムを解明
  - 心理学を基盤に，他の関連領域とのコラボによる
- 過疎と過密を行動科学的視点で考える
  - 過疎と過密は人の心にどのような影響を与えるか
  - それは，認知・行動レベルで違いが認められるか
  - 環境に加え，構成人口による影響

過疎問題の行動的側面

- 過疎地域の環境的特徴
  - 利便性の悪い生活環境…　若いうちはいいが…
  - 通院・買い物に不便，通学も不便，高校のない地域も
  - 生活・就職をする上での不安・心配
- 過疎化と高齢化の二重の問題
  - 若者の都市への流出：就職・進学
  - 年老いた親世代が中心の人口構造：高い高齢化率
    ⇨限界集落化へ
    さらに不便な生活環境への悪循環

高齢者の発達課題と心理的特徴

- 発達課題「統合性」
  - 「喪失の世代」である自己の「受容」
  - 不適応としての「絶望」
- 孤独感
  - 家族との離別：子どもの離家，配偶者の死
  - 社会的つながりの限定化
- 不安感
  - 健康問題（身体・精神），経済問題，家庭問題
  - 「死」との対峙

過密（都市）問題の行動的側面

- 都市部の環境的特徴
  - 利便性は良く，仕事も多い
  - しかし，物価が高く高コスト構造の生活
  - 高刺激・過密社会によるストレス
  - 仕事中心による労働ストレス
- 若者を中心とした社会
  - 単独・核家族を中心とした世帯構成
  - 移動を前提とした都市の広がり
  - 24時間化した社会
  - 古いニュータウンの高齢化（両極化した社会）

過密・都市化のストレス

- 過密社会のストレス
  - 長時間労働・長時間通勤による疲労・ストレス
  - 強迫的社会・高刺激環境にストレス
  - 満員電車，渋滞によるイライラ
- 24時間化社会
  - 利便性を求めての24時間化
  - 深夜労働 ⇨ 生活習慣の乱れ ⇨ ストレス
- 初期のニュータウンの高齢化
  - 地域ネットワークの維持困難
  - 階段のないアパート，買い物・通院への不便さ

家族の視点からの「都市と田舎」

田舎に住む親と都会に住む子という関係

- 親元から離れて就学・就労・結婚
  - 帰省の負担
  - 親の介護問題
    - 中高年時の問題
    - 同時期に，子どもの進学問題も
- 田舎に「親」が残されて…
  - 高齢夫婦・高齢独居での生活，生活物資への不安
  - 子どもや孫に会えない寂しさ
  - 病気・怪我に対する不安，経済的不安

親と子の葛藤

- 「子」は「親」を支えられるか
  - 高齢夫婦・独居老人の生活を支えられるか
  - 自宅での介護が主流となる中で…
  - 退職して親の介護をする子の増加
    → 家庭の貧困化，老親虐待の増加
- 「親」が都市に住む「子」と同居できるか
  - 子ども家族との同居問題
  - 友人・親戚ネットワークからの離脱
  - 移住ストレス ⇨ 一時的な抑うつ状態，認知症の促進

不安とストレスの中で…

- 「親」も「子」も…
  - 不安とストレスを抱えながらの別居生活
  - 近隣での結婚，就職の難しい社会の中で
- これからの「都市ー田舎」の関係は…
  - 新たな交流方法を：情報ネットワークの活用
  - ライフスタイルの変化を：田舎でのスローライフ，労働市場の開発
  - 新たに行動科学的視点を加えたアプローチを